

Hi! アンドレです

社会教育指導員
アンドレ・エスタニスラオ

3月13日は、中学校の卒業式でした。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。みなさんはとても頑張りましたね。私は、みなさんをととても誇りに思っています。

去年、私は小野中学校の卒業式に参加しました。今年、私は浮金中学校の卒業式に参加しました。式典では、素晴らしいあいさつがありました。校長先生は、式辞で「浮金中学校は小さい学校であるけれども、自らの足跡を誇りに思うこととその事を決して忘れてはならない」と励ましました。教育長は、「中学校生活で育んだ“夢”を追い求め、自信と誇りを持って頑張ってください」と話しました。さらに、村上貴大くんによる「別れのことば」があり、私はとても感銘を受けました。彼は、「それぞれ進む道は違っても、私達は常に強いきずなで結ばれている」と言いました。彼は同時に、学校生活において支えてくれた教師と仲間感謝をしました。家族に感謝する彼の表情がととても印象的でした。「3年間の中で、苦しく辛い時もあったが、この日を迎えることが出来たのは、家族の深い愛情に支えられたからこそである」と彼は言いました。

私は、この祝福の輪を広げたいです。中学校は、子供（小学校）から若い大人（高校）への移行期です。中学校での生活は、責任ある社会人となる

ために、学業においても、人格を形成する上でも重要であると考えます。両校の卒業生は、将来きっと立派な社会人になるものと私は信じています。私は、短くとも彼らと共に時間を過ごすことが出来て、とても嬉しいです。

貴大くんのように、私は、卒業生の家族の3年間の支えに感謝したいです。フィリピンでもそうですが、子供の健全な成長のためには、家庭でのしつけが大事だと思います。

もう一度、ご卒業おめでとうございます。そして、みんなの将来に幸多かれ！



浮金中学校の卒業生と

ふるさと小野町会 ふれあい通信

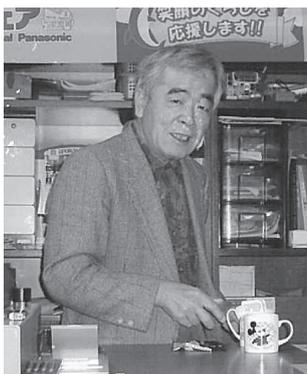
榎本 征一郎
(中通出身・千葉支部)

昭和32年に小野新野中学校を卒業して、金の卵と言われた時代、昭和32年に集団就職で東京上野の商店に住込で就職しました。当時は定休日も決まらず、雨が降ると今日は休んで良いという時代でした。

16年間務め、昭和48年に独立して千葉市で商売を始め現在となっては、その間41歳の時、病気で3か月ほど入院し退院して3年間ほど仕事ができずおりました。

今思い出しますと、入院してた時に一番思い出した事は自分のふるさと、新野の事で、新野の栄えてた時、鉄興社、おまつり、他の行事のことでした。

その後60歳の頃に役場からだと思いますが「ふるさと小野町会」の事を知り、即入会は致しましたが一回目に参加し、



その後定休日の違いで参加できずにご迷惑をかけて申しわけなく思っております。これからはできるだけ参加できるようにしたいと思います。千葉支部の根本さんには行事の連絡をいただきながら参加できずにご迷惑をかけ申しわけございません。これから千葉支部の行事より参加していくつもりです。ふるさとの方々にまたお会いできる日を楽しみにしております。また、年一回のふるさと小包便は毎年楽しみにしており関係者の皆様に心からお礼申し上げます。